

夢二の旅路 画家の夢・旅人のまなざし

竹久夢二美術館（文京区・弥生） 24.01.05～03.31 前後期で展示替え

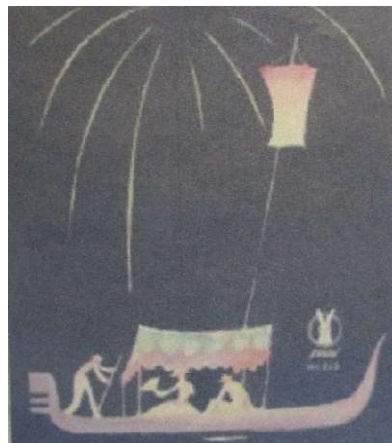


大正ロマンの画家・詩人「竹久夢二」(1884~1934)は、生涯の多くの時間を「旅」に過ごし、東北から九州まで訪れた土地は数多く、晩年には2年4か月をかけて欧米を回る外遊を経験して、見知らぬ土地をさまよいながら、自らの孤独や愁いを作品に表現し続けた。画伯は、旅を重ねる一方で、新鮮な感受性を有する旅人の視点で日常の物事をも見つめ、様々な驚きや発見を制作に反映し、異国情緒溢れる作品には豊かな想像力が発揮された独自世界がある。

本展では、「夢二」が訪れた国内20か所、米国など海外6か国の旅先で描いた「約200点」の作品に写真資料などを添えて、夢二の旅に憧れを抱いた少年時代の思い出から、長年願い続けた外遊までの旅の軌跡を紹介している。



《水竹居》1933年



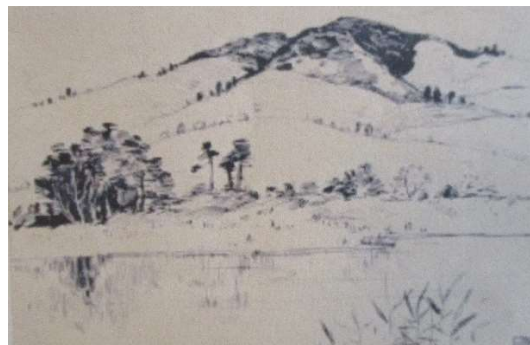
《ヴェニスの船唄》1925年



《初旅》1914年



《モントレイの丘から》1931年



《少女岬》口絵 1909年